九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[01] 和の文化表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/26570

出版情報：和の文化. 1, 2012-03-31. NPO法人和の文化研究会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

7. 出前講座「和の婚礼」

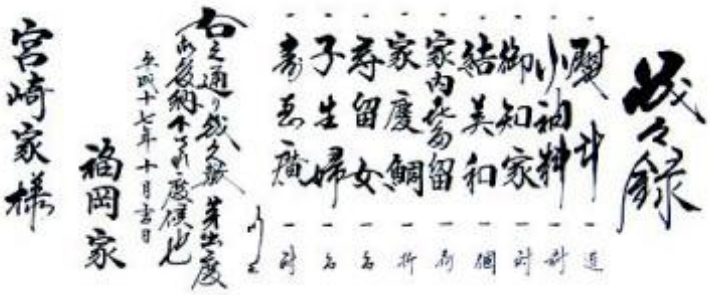
1 日目　講義編
日時／2011 年（平成 23 年）10 月 11 日(火)　午後 1 時～午後 4 時
場所／麻生ブライダル&製菓専門学校
講師／荒木正見(NPO 法人和の文化研究会理事長)
　　飯冨章宏(NPO 法人和の文化研究会副理事長)

2 日目　演習編
日時／2011 年 10 月 18 日(火)　午後 1 時～午後 4 時
場所／福岡市中央区警固神社神徳館
講師／飯冨章宏(NPO 法人和の文化研究会副理事長)
　　今村嘉太郎(助演：能楽師観世流シテ方)

ブライダル関係の人材を育成している麻生ブライダル&製菓専門学校の 1 年生を対象に「和の婚礼」を授業として提供いたしました。

【講義編要旨】
婚席に神々が臨在するという考えは中世の床飾りから見られ、江戸中期の貞丈雑記に明文化された。新郎の自宅に身内の者が集まり、高砂の尉と姥　の掛け軸を床の間に掛け、鶴亀の置物を飾った島台を置き、その前で盃事をして結婚式をする、いわゆる祝言が行われた。家の床の間は神様が居る神聖な場所で、掛け軸や島台も神様の依り所でもあり、当時から結婚式は宗教と密接な関係があった。旧暦の１０月は「神無月」であったので、結婚式はこの月を避けて行われた。「宗教色を無くす」という意図において一時期流行した人前式（じんぜんしき）は、この意味において全くの別物である。
（なお、荒木正見講義の詳細は本誌論文を参照のこと。）

【演習編】



以下は当日資料。

結納の実際

○日取り　一般に、大安、友引、先勝等、吉日とされ、なるべく午前中が良い
○正式結納　仲立ち人（本来の仲人とは別人）が両家を往復し、双方共に結納品を交換するもの
○最近では簡略化され、親族顔見世の機会ともなっている。
○結納は元々民間儀礼であり、地域差や家々でやり方が異なる、事前に打ち合わせる事が望ましい。

1. 仲人到着
仲人のみ、玄関で挨拶。

[玄関先での口上]
この度は、おめでとうございます。本日は吉日でございますので、
○○家より、結納の品を持参いたしました。

[家人答礼]
お役目、御苦労さまでございます。どうぞ、お入りくださいませ。

[仲人]
早速ではございますが、お床拝借願います。

結納の品を飾りつける。

2. 祝儀のあいさつ
目録は、広蓋の上に置き、掛紙をかけ、嫁方の父親の前に差し出す。

[結納の口上]
本日はお日柄もよく、ご婚約の証（あかし）として、結納を持参致しました。
幾久しく、お納めくださいませ
と述べ、手渡しにて、差し出す。（三方は縦ざし目を相手に向けること）

3. 答礼
誠にございますいなお言葉をたまわり、その上結構なご結納の品をいただきまして、
有難うございます。幾久しくお受けいたします。
目録は結納飾りの中央に置ります。（三方は縦ざし目を手前に置くこと）

4. 嫁方受書
本日は、ご結納をいただき有難うございます。受書をお受けください。
と、用意した受書を仲人に手渡す。

5. 結納儀式終了
[仲人口上]
ご両家のご結納の儀、めでたく納まりました。本日は、誠におめでとうございます。
嫁方は用意したお祝いの飲み物（さかな等）などを出し、両家でいただく。
この後、別室で控えていた、家人や親戚もともに懇親します。
この際、両家の紹介や、挨拶等のことなどを話すのもよいかと。

注意事項　仏壇や神棚は御先祖に挨拶する意味で、最初にお参りすることが望ましい。
ただし、閉ざされている場合は必要ない。

古式婚礼次第　　以下は一切静粛に。謡いのみが流れる。

1 入場　　今回は省略。着座より
入場者（順）男蝶、女蝶、男仲人、花婿、女仲人、花嫁、介添人（数人）

2 着座
男蝶：床に向かい、右側
女蝶：床に向かい、左側
男仲人：床を背に右側
花婿：床に向かって左に対座
女仲人：床を背に左側
花嫁：床に向かって右に対座
介添人（数人）適宜の位置に着座

3 初髪の儀
男蝶・女蝶：飾り棚に向かい酒肴三方と銚子三方を取り元位置に
女蝶：提の神酒を銚子に注ぐ
男蝶・女蝶：立って嫁方の前に

4 三三九度の儀
一献（小の盃）謡いあり
男蝶：小の盃を勧める（三方は二手、左廻し）
花嫁：小の盃をとり、神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（一献一杯目）
花嫁：三口にて一杯、元に置く
男蝶：三方を先のようにして、取り、女蝶とともに、婿方へ
男蝶：小の盃を勧める（三方は二手、左廻し）
女蝶：神酒を注ぐ（一献一杯目）
花婿：三口にて一杯、その盃にて神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（一献二杯目）
花婿：三口にて一杯、元に置く
男蝶・女蝶：同じく、嫁方に
女蝶：神酒を注ぐ（一献二杯目）
花嫁：三口にて一杯、その盃にて神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（一献三杯目）
花嫁：三口にて一杯、元に置く
男蝶・女蝶：同じく、婿方に
女蝶：神酒を注ぐ（一献三杯目）
花婿：三口にて一杯、その盃を三方内の脇へ置く

二献（中の盃）
花婿：中の盃をとり、神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（二献目）
花婿：同じ盃にて、三杯重ねる
男蝶・女蝶：同じく、嫁方に
花嫁：中の盃をとり、神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（二献目）
花嫁：同じ盃にて、三杯重ねる

三献（大の盃）
花嫁：大の盃をとり、神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（三献目）
花嫁：同じ盃にて、三杯重ねる
男蝶・女蝶：同じく、婿方に
花婿：大の盃をとり、神酒を求める
女蝶：神酒を注ぐ（三献目）
花婿：同じ盃にて、三杯重ね、盃をおく
男蝶・女蝶：一旦座に戻り、酒肴三方、銚子三方を飾り棚に据える

5 結びの儀
男蝶・女蝶：床に向かい一礼、結びの作法
全員：座を改める、床中心に両人がならび、媒酌人両側に
他の出席者：婿方、嫁方と向かい合って居並ぶ
男蝶・女蝶：次の三方を用意する。両家の父前に据える

6 親子固めの儀 謡いあり
男蝶・女蝶：両家共に進行。婿の父の盃は、嫁に。嫁の父の盃は婿に。樽（たすき

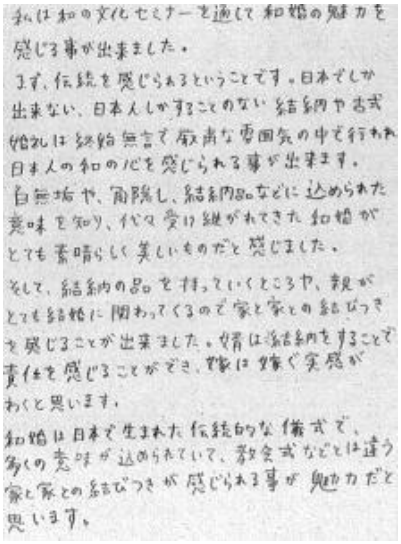
7 兄弟固めの儀 今回は略す。謡いのみ行う

8 幾久しく
媒酌人：一言「幾ひさしく」

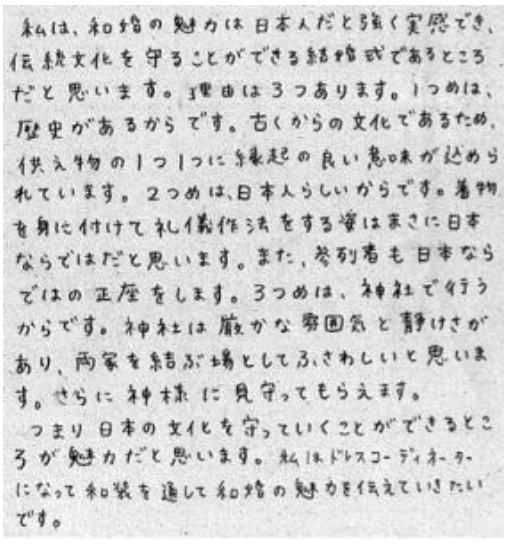
以下は生徒の感想。

和の文化研究会では今年 10 月、麻生外語観光＆製菓専門学校様に対して和の婚礼講座をご提供致しました。同講座を受講していただいたのは、ブライダル科の学生さん約 50 名。後日送っていただいた感想文の中から、2 つだけピックアップしてご紹介します。

和婚の魅力


私は和の文化セミナーを通して和婚の魅力を感じる事が出来ました。
まず、伝統を感じられるということです。日本でしか出来ない、日本人しかすることのない結納や古式婚礼は終始無言で厳粛な雰囲気の中で行われ、日本人の和の心を感じられる事が出来ます。
白無垢や、角隠し、結納品などに込められた意味を知り、代々受け継がれてきた和婚がとても素晴らしい美しいものだと感じました。
そして、結納の品を持っていくところや、親がとても結婚に関わってくるので家と家との結びつきを感じることが出来ました。婿は結納をすることで責任を感じることができ、嫁には嫁ぐ実感がわくと思います。
和婚は日本で生まれた伝統的な儀式で、多くの意味が込められていて、教会式などとは違う家と家との結びつきが感じられる事が魅力だと思います。

私は、和婚の魅力は日本人だと強く実感でき、伝統文化を守ることができる結婚式であるところだと思います。理由は３つあります。１つめは、歴史があるからです。古くからの文化であるため、供え物の１つ１つに縁起の良い意味が込められています。２つめは、日本人らしいからです。着物を身に付けて礼儀作法をする姿はまさに日本ならではだと思います。また、参列者も日本ならではの正座をします。３つめは、神社で行うからです。神社は厳かな雰囲気と静けさがあり、両家を結ぶ場としてふさわしいと思います。さらに神様に見守ってもらえます。つまり日本の文化を守っていくことができるところが魅力だと思います。私はドレスコーディネーターになって和装を通して和婚の魅力を伝えていきたいです。



その他の感想

・伝統を感じました。
・終始無言で厳粛な雰囲気の中で行われました。
・白無垢や角隠し、結納品などに込められた意味を知りました。
・代々受け継がれてきた和婚は美しいものだと感じました。
・親がとても結婚に関わってくるので、家と家との結びつきを感じることが出来ました。
・婿は結納をすることで責任を感じ、嫁は嫁ぐ実感がわくと思います。
・和婚は日本で生まれた伝統的な儀式で、多くの意味が込められています。
・日本人だと強く実感できました。
・伝統文化を守ることができる結婚式。
・着物を身に付けて礼儀作法をする姿は日本ならでは。
・「高砂」の謡いで祝います。
・日本独特のものだと思います。
・結納品には全てに意味があり、今も昔のやり方が受け継がれています。
・両家の仲が深まる。
・結納や三三九度を行う事により、両者も親族も固い覚悟で式に取り組んでいく。
・このような内容を知り、私の中で今まで以上に大切な儀式だと感じました。
・和装は家族とのつながりを改めて実感することが出来る。
・和装はドレスと違い紋が入ることで両親からうけついできたものを感じることができる。
・おごそかで静かな、日本ならではの文化を受けついでいくもの。
・チャペル式に憧れていましたが、三三九度の儀式に魅了されました。
・単なる形での儀式ではなく、両家の心と心を繋ぐ儀式であると感じました。
・結納式を初めて生で見て、勉強になりました。
・私は和婚もしてみたいと感じました。
・これからもっとたくさんの人に、和婚の魅力を伝えていくべきだと思います。
・白無垢の純潔さ、色打掛けの鮮やかさが、清楚で良い雰囲気をかもし出していました。
・私は日本の良さについて、改めて考え直すことができました。
・このような伝統を絶やさず、受け継いでいくべきだと思いました。　　（抜粋）